

放送日 令和6年8月5日（月）
担当者 教育部長 吉田 智樹

おはようございます。教育部長の吉田です。

教育部の令和6年度の取組みにつきましては、コミュニティスクールを基盤とした小中一貫教育の推進に向けて9つの政策と26の施策により、約100の事務事業を部内7課総勢168名により事務事業に取り組んでいるところであります。

さて、本日「子ども大使交流事業」として各小中学校から児童・生徒14名引率4名合計16名の派遣団が8時15分に出発式を終え東広島市に向け旅立ちました。派遣された児童生徒は8月6日広島市で行われる「平和祈念式典」に参列し、平和について学ぶとともに、東広島市において、歴史・文化・自然についての学びや、事前学習で学びを深めた本市の魅力について、それぞれの交流校へ訪問し、自分たちの言葉で伝えて来ることとしているところです。この交流を通し、姉妹都市の友好を深めることと同時に、事前学習により自分たちが住む街の魅力を再発見・再認識することで、郷土愛が深まったと感じています。

職員の皆さんにも「故郷」はあると思います。私の「故郷」は知床半島羅臼町です。北広島市に住み始め33年目となり、故郷よりも長く住んでいても、様々な場面で羅臼を見たり聞いたりすると気になるのは、「郷土愛」だと感じています。一方で、北広島市に対しては「郷土愛」とは別の感情を懐いています。

「シビックプライド」という言葉があります。この言葉は、「地域への誇りと愛着」を表す言葉です。自分たちの住むまちをより良いものに、誇れるものにして行こうという思いです。「郷土愛」にも似ていますが、少しニュアンスが違い、自分自身が地域の構成員であることの自覚、そして良い街にしていこうとする「意志」が含まれます。

職員の皆さんも市職員として、この「シビックプライド」を高めながら、多くの市民の心に「地域への誇りと愛着」の灯を灯すため、それぞれの立場や業務を通し、職員一丸となってまちづくりに努めていくことが大切だと考えています。今日も一日自覚と意志をもつて笑顔で頑張りましょう。

放送日 令和6年8月7日（水）
担当者 教育部理事 鹿野 秀一

おはようございます。教育部理事の鹿野秀一です。

昨今、学校教育には、子どもの未来に責任を持つことが求められています。20年後、30年後、その先にある未来は予測困難な時代となることから、そこで生き抜く力を全ての子に付けなくてはならない、ということなのです。

本市においては、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を通して、持続可能な社会の創り手を育むことを目標に、実践を積み上げていくところなのです。

ただ、私たちは、子どもの育成だけでなく、将来の社会についても、責任を負わなければなりません。「世代間正義」あるいは「世代間倫理」と言われるように、私たちには、未来世代の生存可能性に対して責任があるのです。「自分が生きている今だけ幸せであればよい」と、将来にツケを回すような考え方から脱却しなければならない、ということなのです。

5月に「東部中サミット」を参観しました。中学3年生から、北広島をさらによくするための、夢を馳せた提言が発表され、将来のふるさとを真剣に考える子どもたちを実感することができました。そして、このような未来の当事者である子どもの声は、大変貴重であると強く思ったところなのです。

子ども目線で捉え直したり、子どもとの対話を通じた施策のバージョンアップなど、未来の当事者である子どもや若者の思いを受け止めながら、まちづくりを推し進めていくことが大切であると改めて感じたところです。

「今だけ、金だけ、自分だけ」と考える人がいる中であって、教育の力も活用しながら「今だけ」ではなく、未来を見据えた、未来が幸せなまち「北広島」を、みんなで力を合わせて創っていきましょう。

放送日 令和6年8月14日(水)
担当者 教育部理事 新谷 良文

おはようございます。いまだ図書館にいる新谷です。

今回は仕事の話ということで、図書館では、かなり前から小学生を対象にした1日司書というイベントを行っています。例年、一桁の応募が普通だったのですが、ここ数年応募が増えてきて、今年は、PRも控えめにしたのですが、各地区から30人以上の小学生が応募してきました。

なぜ、こんなに増えてきているのかを考えてみると、学校図書館が整備されている効果が大きいと思います。現在、本市の小学校8校中7校までは、まあまあ今風の学校図書館になっていて、その内の3校には学校司書が巡回しています。こんな所で働いてみたいと思う子どもが増えてきているのではないかと推測しています。そして、そう思った子が学校に止まらず、市の図書館の1日司書にも応募してくれる。子どもたちの眼からは、学校か保護者を通して、市の図書館が見えているのかもしれない。まさに、こういったシームレスな図書館行政が北広島市図書館の狙いでもありました。

今後も、「まちなか司書」や「デジタル豆次郎」、「ブックキャラバン」など、いろんな仕掛けを子どもたちに投げかけながら、大人になった彼らを待っていければ良いなと思っています。

放送日 令和6年8月19日（月）
担当者 消防庁 小室 秀治

おはようございます。消防長の小室です。

消防では、住宅用火災警報器の設置と取替えのさらなる普及促進を強力に推し進めるため、札幌市消防局、パナソニック株式会社と連携協定を締結しました。

この協定は火災による死傷者の発生を防止することと火災に伴う損害を最小限に抑えることを目的に、自治体の枠を超えて互いに連携して取り組む事業になります。

住宅火災によって亡くなられる方の約半数は「逃げ遅れ」によるもので、そのうちの約7割が65歳以上の高齢者となっています。年齢を増すごとに、避難に時間を要するため、この傾向が顕著となっています。

火災の発生を抑えることは、難しいことですが、もしもの時、いち早く火災の発生を知ることができれば、避難や初期消火を実施することが可能となり、被害を最小限にすることができます。是非この機会にご自宅の住宅用火災警報器を確認していただき10年を経過している場合には交換をお願いします。

近年は高齢化の進展などに伴い、救急要請が増加しています。市内におきましても昨年は2,938件の出動要請がありました。前年に比べ419件、16.6%の増加となっていることから、今後も救急車の適時・適切な利用の呼びかけを行っていきます。

また、熱中症による救急要請も増加傾向にあります。まだまだ、気温の高い状況が続きます、体調管理には十分気を付けましょう。

放送日 令和6年8月21日（水）
担当者 消防本部次長 杉山 正一

おはようございます。消防本部次長の杉山です。

消防本部は、総務課、警防課、予防課の3課体制で、消防車両や消防水利の計画的な更新、近隣自治体との連携強化などによる災害対応能力の向上、消防団を中心とした地域の防災意識の向上、火災や死傷者の未然防止を今年度の基本方針に掲げ、日々業務を行っています。

月曜日の小室消防長のスピーチでお話がありました住宅用火災警報器については、本市では寝室と台所への設置を、2階以上に寝室がある場合は階段にも設置を義務づけているところです。

さて、私がお盆に実家に帰省したところ、居間に警報器があるだけでした。母に尋ねると、亡くなった祖母が設置したものだが、いつ設置したかはわからないとのことでした。

市内のホームセンターや家電量販店を回ってみたところ、安いものだと1台2千円以下で、他の部屋の警報器が感知すると、家じゅうの警報器が一斉に火元を知らせてくれる連動型は1台1万円前後で販売されていました。

道内では、今年6月までの上半期で876件、市内でも7件の火災が発生しています。

いざというときに1秒でも早く初期消火や避難ができるよう、ご家族を含め住宅用火災警報器の設置や10年を目安とした交換について、今一度ご確認をお願いいたします。

話は変わりますが、私は17年前、本市のこども大使の引率として東広島市を訪れました。その際、思いがけず市役所で多くの職員の皆様に歓迎頂いたことに驚くとともに、遠く離れた北広島市との姉妹都市交流に想いを寄せて頂いていることに大変感激したことを覚えています。

本日から3日間、東広島市の子ども大使15人の皆様が、姉妹校での交流や市内外での学習・体験を行うとともに、本日14時45分頃、市長表敬訪問のため市役所にいらっしゃいます。私も、大使の皆様を温かくお出迎えしたいと思っています。

放送日 令和6年8月26日（月）
担当者 消防署長 和知 真人

おはようございます。消防署長の和知です。

今年度消防本部では、高齢化の進行に伴う救急需要の増加や市内交流人口の拡大など、本市を取り巻く環境の変化に迅速で柔軟な対応を実現することを基本方針として取り組むこととしました。

私たち消防職員は、元気な人が逃げてくるところや留まることをためらう場所が仕事場となります。その中には凄惨な現場や恐怖を感じる現場のほか、時には周囲の人から罵声を浴びながら活動しなければならないこともあります。

どんな状況であっても冷静にそして素早く現場活動を行うため、日々の訓練や学習をとおして、知識や技術、迅速な判断力などを身に着けるため日々研鑽をしている仲間たちを頼もしく感じるとともに誇りに思っています。

危機迫る消防の現場は、一人では困難な活動もチームで対応することでその効果を何倍にもすることができる一方、一つミスが自身のみならず仲間の命を危険に晒すことになるので、普段から緊張感をもって真剣に訓練や装備の点検を実施しています。

昨年、残念なことに近隣消防本部の仲間が火災現場で殉職する事故が発生しました。

職員には元気に出勤してもらい、澁瀬と仕事をして、無事に家族の元に帰ってもらう。この当たり前の事を365日当たり前に行う事を徹底し、市民の安全で安心な暮らしをしっかりと守っていけるよう努めてまいります。

放送日 令和6年8月28日（水）
担当者 市民生活課 西山 僚太郎

おはようございます。市民環境部市民生活課の西山僚太郎です。

緊張の中、入庁した4月から、早くも5か月が経とうとしています。入庁前は、朝型の生活リズムや新しい環境など、不安なことでいっぱいでしたが、少しずつ職場の雰囲気にも慣れてきて、周りの先輩方に支えてもらいながら、日々業務に取り組んでいます。

さて、私が所属する市民生活課は、課名の通り、市民の方と関わる機会が多い部署であり、窓口には、たくさんの方が訪れます。先輩方は、多くの市民の方に顔を覚えられていて、親しく会話している姿を見ると、信頼されていることがよく分かります。なぜこのように信頼関係を築けているのか考えたときに、常に親身になって対応することが一番の秘訣なのではないかと思いました。私は、主に町内会関係の業務を担当しているため、町内会長さんや、役員の方とお話しする機会が多いのですが、説明することでいっぱいになってしまい、中々上手にコミュニケーションを取ることができていません。これでは市民に信頼される職員にはなれないので、先輩方を見習ってコミュニケーション能力を磨くとともに、親身な対応を心掛けることで、市民の方との信頼関係を築いていこうと思います。

他にもまだまだ課題はありますが、早く一人前になれるように、日々業務に励んでいきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

放送日 令和6年8月30日（金）
担当者 商工業振興課 中野 裕成

おはようございます。商工業振興課の中野裕成です。4月より、東広島市から出向で北広島市でお世話になっております。気づけば8月が終わり、9月に入ろうとしております。

本日は、お恥ずかしながら北広島市へ来て5か月間の私の話をさせていただきます。

4月北広島市へ入庁した私は、これから始まる新天地での生活に胸を躍らせていました。

私自身、今回の異動が市役所人生初めてであり、新しい環境で結果を出そうと気を張っていました。出向先となった商工業振興課では、佐々木課長を筆頭にスピード感ある職場で、日々の業務についていくことがやっとでした。私自身少しでも皆さんに近づこうとトライしましたが、現実は厳しく、何もできない自分に日々悩んでいました。初めての環境、職場、慣れないことだらけでできないことが当たり前なのに、無理をして自身を偽っていました。改めて、自身の弱さに気づかされた5ヶ月でした。そんな私を課内を含め、職員の方々は、いつも気にかけてくれました。職員の皆様の人の温かさに心打たれる日々でした。

ある日、ふと考えました。私は何のために、北広島市へ来たのか。もちろん姉妹都市としての交流や他市の働き方を学ぶためでもあります。ただ一番強く感じたのは、「挑戦」でした。挑戦は、成功だけではなく、失敗も含めてです。今までの私は失敗することや自身の弱さをさらけ出すことに臆病になり、本来の自分を見失っていました。出向できたからこそ、恥も外聞も捨てて泥臭く、前に向かって走り続けようと思います。北広島市は新しいことに挑戦することに対し、常に前向きなまちであると感じております。常に前へ挑戦し続ける気持ちが職員の1人1人に宿っており、その思いが今の北広島市を支えているのだと感じております。私もその一員として、挑戦し続ける職員として日々の仕事に取り組みたいと思います。まだまだ至らぬ点が多く、多くの方々にご迷惑をおかけしますが、職員の皆さんとの交流の中で、様々な視点や考え方を吸収し、自身の成長につなげていきたいと思っております。

最後になりますが、明日31日は、大曲の夢プラザにて「産業博覧会」が10時より開催されます。市内の企業をはじめ、はたらく車や飲食店の出店もあり、子どもから大人まで楽しめるイベントとなっております。お時間がある方は是非とも参加いただければ幸いです。ご清聴ありがとうございました。